

ICUにおける人工呼吸器装着患者-看護師間 コミュニケーションの現状と課題

～患者の回復を支援するコミュニケーション実践～

看護学部 看護学科

○講師 やまぐち あきこ
山口亜希子

キーワード

集中治療室, 人工呼吸器装着患者, コミュニケーション

研究概要

人工呼吸器装着患者は音声言語を用いてコミュニケーションを行うことができない。そのため患者は、コミュニケーションの過程で困難さを体験していることが予測される。そこで本研究は、集中治療室（以下、ICU）で治療を受けている人工呼吸器装着患者が、患者-看護師間コミュニケーションにおいてどのような困難さを体験しているのか、その具体的内容を明らかにすることを目的に実施した。対象は、ICUで気管挿管のもと人工呼吸器を装着した患者3名及びその患者を担当した看護師8名であった。患者-看護師間コミュニケーション場面の観察を行い、参加観察で得られたデータをもとに患者へ面接を実施した。得られたデータは質的帰納的に分析した。結果を表1に示す。

表1 ICUで人工呼吸器装着患者が体験した患者-看護師間コミュニケーションの困難さ

- 【身体機能が低下し代替手段が使いにくい】
- 【痛みや苦しみをありのままに伝えられない】
- 【メッセージを理解されるまでに時間がかかり苛立つ】
- 【メッセージを理解されたか分からず安心できない】
- 【ほったらかされ不安になる】

本研究結果より、患者はコミュニケーションの過程でメッセージ送受信の難しさを体験していることが明らかとなった。また、看護師とのコミュニケーションの機会が保障されていない現状が窺えた。

看護師は、患者とのコミュニケーションを通して、ケアニーズを明確にしたり、癒しを提供したり、関係性を構築したりする。また、患者とのコミュニケーションは、患者の回復過程促進やQOL向上にも貢献する。したがって、患者-看護師間コミュニケーションの機会は重要であり、コミュニケーションの機会が保障されていない現状は早急に解決しなければならない課題であると考えられる。

アピール ポイント

本研究は「ICUの人工呼吸器装着患者が体験したコミュニケーションの困難さと用いたコミュニケーションの方略、日本クリティカルケア看護学会誌、11(3): 45-55, 2015」、「知るとケアがもっとよくなる! どうなっている? 患者さんのこころの中-人工呼吸器装着患者さんのコミュニケーションの困難さの体験と看護援助

Expert Nurse, 33(2): 71-75, 2017」で成果を公表した。また、本研究成果をもとに、現在、「ICUにおける人工呼吸器装着患者-看護師間コミュニケーションの実態調査」に取り組んでいる。